

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 豊橋中央高等学校 (※正式名称を記載)
種 別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫^{※注1}
 中学校 中高一貫^{※注2} 高等学校
 教員養成大学 専修学校、各種学校
 特別支援学校
 その他（例：小中高一貫 _____）
所在地 〒440-0856 _____
愛知県豊橋市鍵田町 106 番地
E-mail info@toyohashi-chuo.ed.jp
Website http://takakura-gakuen.sua.jp/
幼児児童生徒数 男子 535 名 女子 362 名 合計 897 名
幼児・児童・生徒の年齢 15 歳～ 18 歳

※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

2. 報告期間

平成 29 年 4 月～平成 30 年 3 月

※報告書提出時点～平成 30 年 3 月末までの活動は、予定（見込み）として記載ください。

3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要（800字程度＋活動内容を表す写真数枚）

※チェック事項 1-1、2-1 に対応

当校は、建学の精神である「和」と、ユネスコ憲章や ESD の理念は共通していると考え、ユネスコスクールの精神を基調として、人と社会と環境の和・輪・環を重んじ、地球的視野に立って身近なところから取り組む、持続可能な社会づくりの担い手育成を目指している。環境、貧困、国際理解などを柱として下記の活動を行った。

①環境にかかわる教育

環境は、ESD の中心テーマであり、また本校がユネスコスクールに加盟申請した時の核でもあるため、引き続き最重視している。環境問題を考えることで現在の我々の生活様式が持続可能ではないことを知り、今後の行動につなげていくことを目的に取り組んでいる。本校独自の環境 ESD 活動が、リアカーボランティアとリアカーパトロール（補足資料参照）から成るリアカープロジェクトである。【写真、新聞記事①】この活動は、エネルギー、防災、地域などにも関連している。

②貧困にかかわる教育

世界の貧困問題について考える機会を作る活動として、難民の子供に子供服を

届ける「届けよう、服のチカラ」プロジェクト（補足資料参照）に参加している。
【写真】また、エコキャップ運動（補足資料参照）や書きそんじハガキキャンペーン（補足資料参照）にも学校全体で取り組んでいる他、卒業生の有志が防災備蓄品をフィリピンのストリートファミリーに寄付した。

③国際理解にかかわる教育

国際理解を促進するために、留学生の受け入れや海外への生徒派遣などにも取り組んでいるが、海外修学旅行と融合させた教育プログラムとして実施しているのが、ジャパンアーマイル国際交流壁画共同制作プロジェクト（補足資料参照）である。「届けよう、服のチカラ」プロジェクトも国際理解にかかわる活動である。

④その他の活動

「ワールドフライデー」、「インターナショナルクッキング」【新聞記事②】、「ヒガタアシ最終防除イベント」【新聞記事③】など。補足資料参照。

⑤ESD振り返り会

1年のESD活動を全校で振り返る会を3月16日に実施した。環境賞中部環境パートナーシップオフィスのチーフプロデューサー、新海洋子氏の講演、活動報告、ESDパスポート30ボラン達成者への表彰などを実施した。【写真、新聞記事④】



リアカーボランティア 章南中学生と共に汐川干潟の清掃。



届けよう、服のチカラ
プロジェクト

市内の幼稚園から
不要な子供服を回収。



ジャパンアートマイル国際交流壁画共同制作プロジェクト
台南市の国立善化高級中学と1枚の壁画を制作 修学旅行で訪問し交流



ESD 振り返り会
1年のESD活動を発表・報告

(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input checked="" type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input checked="" type="checkbox"/> 3. 防災	<input checked="" type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input checked="" type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input checked="" type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input checked="" type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input checked="" type="checkbox"/> 10. 食育	<input checked="" type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input checked="" type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他()		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入)	

ウ. 活動時間（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述)	

エ. 使用した教材（書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名）

- ・「届けよう、服のチカラ」教材 PPT
- ・ジャパンアートマイルのフォーラム
- ・日本スパルティナ防除ネットワーク 教材 PPT
- ・ワールドフライデー YouTube 動画や教員自作動画

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

ワールドフライデーは、金曜日の朝のST前の10分間の時間を使って、全校生徒が行った。SDGsについての基本的な知識を身に付けると共に、批判的に考える力や多面的・総合的に考える力の素地作りを目指した。ジャパンアートマイル国際交流壁画共同制作プロジェクトは修学旅行と融合させており、総合的学習の時間の中の修学旅行事前指導の一環として実施した。コミュニケーションを行う力や他者と協力する態度の育成を目指した。インターナショナルクッキングは、家政科のフードデザインの授業の一環として行われた。食を通じてその国の文化を知り、従来の調理実習の枠を越えた、多面的・総合的に考える力を養う授業とした。その他のESD活動は課外活動として実施されており、通常の教育課程や指導計画の中に組み込んでいない。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

教育理念の中にユネスコ憲章やESDの理念について謳っており、入学説明会や入学式において説明している。教員組織においては、管理職や生徒会顧問を構成員として含むユネスコスクール推進本部を設置しており、組織的かつ継続的に活動に取り組む体制や環境を整えている。生徒組織においては、各学級にユネスコ委員を設置しており、学校のESD活動の核としている。また、3学期末にESD振り返り会を実施し、ワークシートを利用して、学校全体で1年間のESD活動を振り返る機会を設けている。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

3月末に、1・2学年のみ対象ではあるが、ESD振り返り会を実施した。これは、ESDパスポート運用の上に必要な体験発表会を兼ねたものである。ESDパスポート30ボラン取得者にボランティア活動認定証を授与すると同時に、1年間の校内でのESD活動の振り返りを行い、発表者・参加者およびその他の生徒たちの間でワークシートによる相互に評価を行った。また、外部から来賓と講師を招き、外部の視点からも本校のESD活動を評価していただいた。校内の行事に留まらせるのではなく、外部に積極的に発信していくよう、助言をいただいた。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

今年度は活動に加えて発信にも力を注いだ。具体的には、県内や市内のユネスコスクール交流会に生徒や教員が発表者やパネリストとして参加したり、愛知環境賞などの賞に応募したりした。「届けよう、服のチカラ」アワードでは高校の部優秀賞に輝き、有志の参加生徒たちが東京で開催された授賞式に出席した。賞への応募、受賞、授賞式への参加などを通して、生徒たちの意欲が高まっており、来年度以降のESD活動のさらなる活発化が期待されている。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)
(200字程度) ※チェック事項 2-3 に対応

本校は豊橋ユネスコ協会の法人会員となっており、理事会や定例会に担当教員を派遣している他、豊橋ユネスコ協会と親密な協力関係にある。環境賞中部環境パートナーシップオフィスのチーフプロデューサー、新海洋子氏には、ユネスコスクール加盟時からお世話になっており、今年度本校で実施されたESD振り返り会では講師として、ESDやSDGsについて講演をしていただいた。今年度は地元企業との連携を模索し始めており、来年度でも引き続き働きかけを行っていききたい。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度) ※チェック事項 2-4 に対応

県内や市内のユネスコスクール交流会に参加し、他のユネスコスクールとの連携を図っている。市内の小中学校は全てユネスコスクールに加盟しており、そのつながりも重視している。リアカーボランティアでは、豊橋市立章南中学校と協働で汐川干潟の清掃活動を行った。国外のユネスコスクールとの交流はないが、今年度はジャパンアートマイル国際交流壁画共同制作を通じて交流ができた台南市の国立善化高級中学と姉妹校提携を行った。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）
※チェック事項2-5に対応

ESD活動があることで、部活動や勉強面以外での生徒たちの活躍や成長の場が増え、自己有用感を醸成できている。地域に出て行く場面が増えることで、生徒の視野が広がると同時に、地域の声にも接することができ、参加した生徒たちの意欲が高まっている。また、市内の小中学校が全校ユネスコスクールに加盟していることや、本校が地域唯一のユネスコスクール加盟高校であることもあり、地域のESD活動のリーダーとしての地位を築きつつある。

(3) 平成30年度の活動計画（200～400字程度）

リアカープロジェクト、「届けよう、服のチカラ」プロジェクト、ジャパンアートマイル国際交流壁画共同制作プロジェクト、ワールドフライデーなど、現在核となっているESD活動を継続・発展させると同時に、ESD振り返り会を定例行事として定着させ、全校でESDに取り組む体制を整えていく。地元企業との連携にも取り組んできているが、それをさらに推進する。

今年度、「届けよう、服のチカラ」アワードでは、高校の部で優秀賞を受賞したものの、最優秀賞は逃した。参加生徒たちは、次是最優秀賞を狙いたいと考えており、さらなる活動の強化が期待される。その鍵となるのは主体性である。

「届けよう、服のチカラ」プロジェクトに限らず、その他のESD活動においても、いかに生徒たちの主体性を刺激し、育成できるかが重要であると改めて気づかされた。

来年度は各活動で生徒の主体性を重視し、しっかり対外的に発信していきたいようにしたい、というのが全体に共通した目標である。